令和６年７月１１日

日立理科クラブ通信

Ｎｏ．２２６

日立理科クラブ

「理科室のおじさん」を訪ねて２　日立市立仲町小学校

今回の「理科室のおじさんを訪ねて」は、仲町小学校（小泉裕子校長）の河野公生（かわの　きみお）さんです。

河野さんは大分県大分郡湯布院町（現在の由布市湯布院町）の出身です。子どもの頃は、野山を駆け巡り、冬はそり遊び、夏は魚釣りをするなど恵まれた自然の中でよく遊び育ったそうです。

理科クラブに入る前は、日立製作所大みか工場で、モータ制御装置の開発と実際のシステムへの適用等の仕事をしていました。新幹線や東京メトロのシステム更新などにも関わったそうです。

「理科室のおじさん」河野公生さん

理科室のおじさんは、９年になります。学校では「理科おじさん」、「おじちゃん」と呼ばれ、児童にとても親しまれています。

思い出のアルバム

昇降口の理科コーナー

理科室では、先生方が実験をしやすいように計画的な準備や、環境整備等をしています。理科室にはホウセンカを育てていますが、６年生が、導管や師管など植物のつくりを調べるときに使うため、早くから準備して育てています。また、動くおもちゃを作っていました。子どもたち一人一人が楽しく、そしてよく分かるように準備しているようです。

昇降口や理科室の前には、理科コーナーを作って、毎週の気象情報や理科の話題提供をしています。

動くおもちゃを準備

実験の準備

河野さんは、子どもたちからの素朴な質問や、ハッとするような回答、子どもたちの輝く目を見るのが楽しみで、それらに触れるとまた頑張ろうといつも思うそうです。

また、河野さんは、理科室のおじさんのまとめ役を担っていて、他校の理科室のおじさんの話しを聞きながら、相談に乗ったり、アドバイスをしたりしています。

子どもたちに伝えたいのは、「まず、体をつくろう、継続は力なり」ということです。元気が何より大事なので、よく遊んで健康な体をつくってほしいと思っているからです。

仲町小から見える大煙突

最後に、仲町小学校のよさを聞きました。仲町小学校は、児童と先生、児童同士の関係がよいこと、そして、地域とのつながりが深いことをあげてくれました。伝統の風流物太鼓は地域の方の指導を受けながら６年生から５年生に受け継がれています。３学期になると毎日太鼓の音が響くそうです。

河野さんへのインタビューを終えて校庭に出ると、小説「ある町の高い煙突」の舞台になった大煙突が見えました。当時世界一の煙突と言われ、今はその３分の１ほどしかありませんが、自然の大切さや協力など多くのことを語りかけているように思いました。

文責　日立理科クラブ　作間　忍　日立理科クラブ事務所　TEL/FAX　0294-24-3104